

天理図書館所蔵 春雨物語

— 羽倉本・天理冊子本・西莊本 —

天理図書館編

2021年5月20日刊行 ISBN978-4-8406-9771-2 C3093 ¥35000E

B5判上製・カバー装・650頁・定価38,500円（本体35,000円＋税）

- 天理図書館では、上田秋成自筆稿本『春雨物語』を新たに収蔵。秋成は文化6年（1809）6月27日、76歳で門人の荷田（羽倉）信美家にて没した。この稿本は、その羽倉家に代々伝わった秋成関係資料のうちの一つで、本文6篇より成る。巻頭に「序」を掲げ、巻尾に亡くなる1ヶ月前の、文化6年5月の年記を有する奥書がある。これまで未知の自筆稿本であり、『春雨物語』における本文の改稿や推敲過程を考える上で重要資料となる。
- 併せて、影印未刊行であった天理冊子本（全59丁）および本文完備の西莊本を収録し（モノクロ網目版）、解題と羽倉本翻刻を付す。

【諸本収録内容一覧】○は完全原稿、△は不完全原稿。○△の符号のあるものは筆致や用紙、内容の繁簡等異なる二種の原稿があることを示す。（本書「解題」より）

	春雨草紙	天理冊子本	富岡本	天理卷子本	文化五年本	羽倉本
序		△	○		○	○
血かたひら	△△	△	○		○	○
天津をとめ	△△	△	○		○	○
海賊		△	○		○	○
二世の縁		△			○	
目ひとつの神	△	○	○		○	
死首の咲顔				△	○	○
捨石丸	△	△		△	○	
宮木か塚		△		△	○	○
歌のほまれ	(△)			○	○	○
樊噲（上）		△	○		○	
樊噲（下）				△		
妖尼公		○△		△		
楠公雨夜かたり		○△				
奥書					文化五年三月	文化六年五月

うえだあきなり
上田秋成とは 江戸時代中後期の文人、享保19年（1734）－文化6年（1809）。大阪で生まれ、商家の養子として育つ。長じて、蕪村・几童などの俳人や木村葦菴・大田南畝などの文人と交遊を深め、代表作『雨月物語』『春雨物語』の執筆のみならず、国学・和歌など幅広い分野で活躍した。

はるさめものがたり
春雨物語とは 上掲10編を収める短編小説集。文化5年（1808）に成稿を見たが、以後も死に至るまで改稿を重ねた。著者晩年の歴史観・文学観・宗教観等々、秋成世界の全てが凝縮された傑作。刊本ではなく写本により伝えられ、その本文校訂は今なお学界の大きな研究課題となっている。

天理図書館所蔵

春雨物語

— 羽倉本・天理冊子本・西莊本 —

上田秋成最晩年の傑作
従来まったく知られなかった自筆稿本出現！
本文の改稿・推敲過程を再検証するための必須資料



新出の羽倉本を高精細カラー掲載

天理冊子本と西莊本を併せ影印初公開！

●2021年5月20日刊行
●B5判上製・カバー装・六五〇頁
●定価三八、五〇〇円
(本体三五、〇〇〇円＋税)

〔解題〕
大橋正叔

〔羽倉本翻刻〕
牛見正和

大西光幸
大橋正叔

内容見本

八木書店



八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.

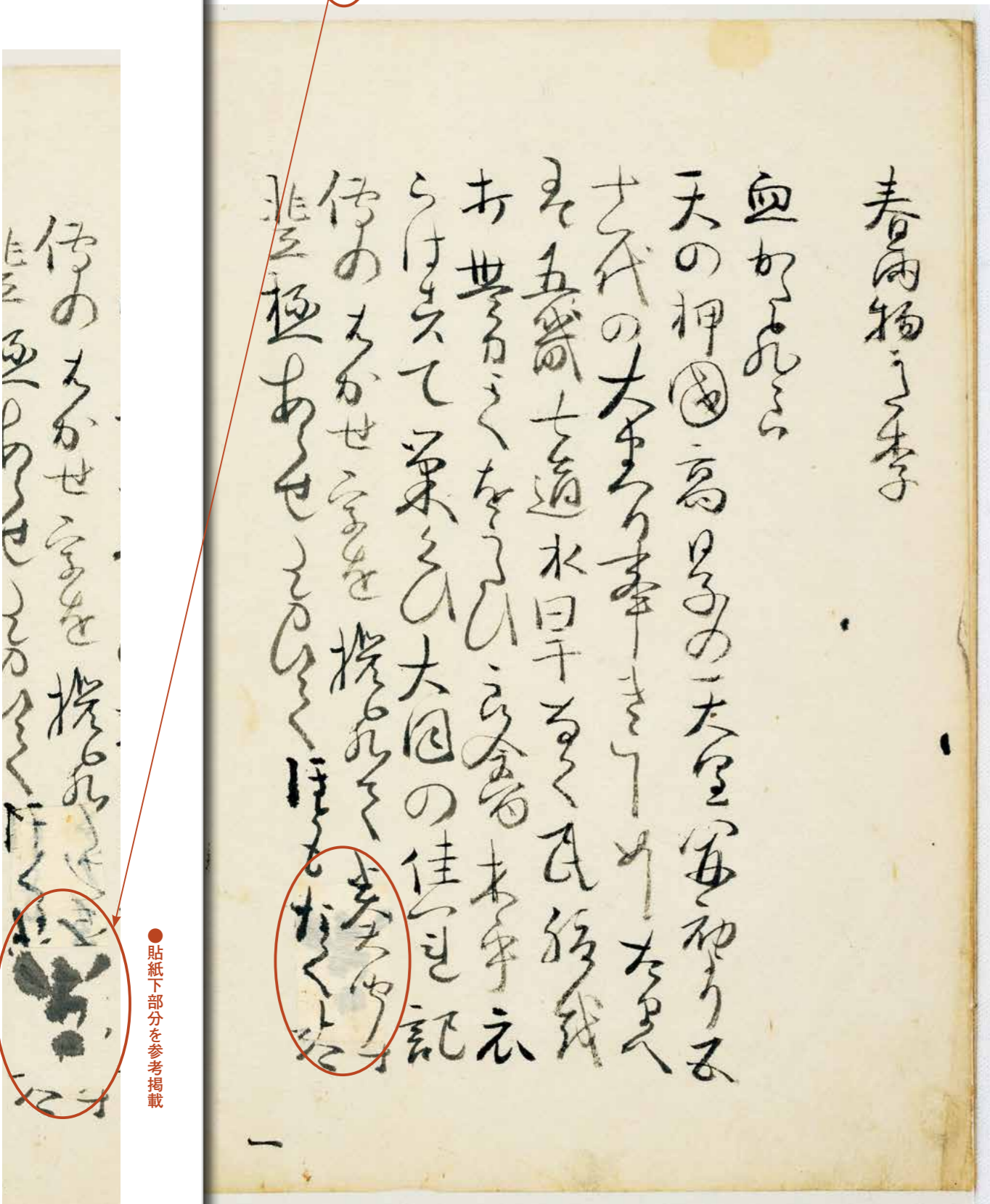
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ●E-mail pub@books-yagi.co.jp

●TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX 03-3291-6300

●Web <https://catalogue.books-yagi.co.jp/>

[2021.4.pp.]

91頁参照



春雨物語 羽倉本 一(ウ) 血かたひら

春雨物語の魅力

— 本書刊行によせて —

上田秋成最晩年の作『春雨物語』は、明治四十年の富岡本(序・五話) 公刊後、襖の下張りや断簡からなる自筆草稿が出現するといふ、秋成の性癖を推し測らせる、その成立自体に魅惑するものがあった。その後転写本である十話を完備した文化五年本が公刊されるが、自筆諸本との間で各話に相違があるために、研究者が諸本間の前後や本文校訂を試み、中村幸彦校註『上田秋成集』(日本古典文学大系)で決定的な成果が提示される。近年、その成果に疑義が出され改めて検討がなされているところに、「文化六年五月」と奥書する秋成自筆の羽倉本(序・六話)一冊が新たな一石として投げられたのである。死の一ヶ月前まで推敲に推敲を重ねて書き綴られてきた『春雨物語』、秋成のこの営為は何を意味するのか。秋成研究者でなくとも惹きつけられるところである。

また、その内容ともども文章も魅力的である。『春雨物語』には秋成の社会・歴史・文化・人間観が露わに表現されているといわれるが、成立への過程において既に秋成自身の行動に目が向けられており、『春雨物語』は秋成と一体であるとの感が生じている。描かれた十話はテーマを異にするが、そこに秋成その人を近く感じる素地ができていく。それは、また、秋成の「語り」を聞くかのような文体にある。『春雨物語』序に「物かたりさまハ、またうい事そや。……空言(まこと)かたりつ、けて、」(羽倉本)とあり、「物かたりさま」を強く意識している。宗貞(僧正遍照)の生き方を取り上げた「天津處女」の末尾は「かにかくに、人のよしあしハ、稟得たる、おのかさちく(あれこれ)というが、人の幸不幸は持つて生まれた幸運による。」と結ばれるが、斯く囁く秋成が身近にいる錯覚に陥る、そんな読み方をさせるのである。

天理大学名誉教授

大橋正叔

【収録】
羽倉本

(高精細カラー版)



天理冊子本

(モノクロ網目版)



西荘本

(モノクロ網目版)



『春雨物語 羽倉本・天理冊子本・西荘本』 解題
『春雨物語 羽倉本』 翻刻

● 貼紙下部分を参考掲載